鉄鋼・非鉄金属

1. 評価対象企業（14社）

新日鐵住金、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、日新製鋼、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	8	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	5	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	10
計		25	100

（注）評価項目の内容および配点は 48 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 23 名（23 社）である。（49 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（47 頁）参照）

- ① 本年度は、説明会等において配点変更 3 項目（うち 1 項目は内容も変更）、フェア・ディスクロージャーにおいて新設 1 項目、内容変更 2 項目（うち 1 項目は配点も変更）、コーポレート・ガバナンス関連において内容変更 1 項目（併せて項目名も変更）、自主的情報開示において内容変更 1 項目を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.3 点（昨年度 72.2 点）、総合評価点の標準偏差は 3.7 点（昨年度 6.0 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（7 社：新日鐵住金、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、日新製鋼、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属）は 71.0 点（昨年度 70.8 点）、非鉄金属（7 社：三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ）は 73.7 点（昨年度 73.6 点）となり、本年度も非鉄金属が鉄鋼を上回った。なお、両業態とも昨年度より同程度上昇したことから、業態間格差は維持された。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 73%（昨年度同率）、説明会等が 77%（昨年度 76%）、フェア・ディスクロージャーが 85%（昨年度 82%）、コーポレート・ガバナンス関連が 66%（昨年度 70%）、自主的情報開示が 55%（昨年度 54%）で、自主的情報開示の分野が、例年同様、他の分野に比べ低水準となっている。
- ④ 評価項目について見ると、全 25 項目中 9 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 3 項目は、(a) (b) が全社満点、(c) が 1 社を除き満点となった。

- (a)「ホーム・ページを利用して有用な情報提供を行っていますか」(平均得点率 100%)
- (b)「外国人投資家にも配慮した情報提供を行っていますか」(平均得点率 100%)
- (c)「四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか」(平均得点率 93%、得点率(評価点/配点(以下省略)): 100%13社)

- ⑤ 一方、「経営トップの市場との対話姿勢をどう評価しますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか」については、平均得点率が 69% (昨年度同率) の評価に留まり、得点率の差も大きく、アナリストが重要視している経営トップの市場との対話姿勢について多くの企業で改善が求められる。
- ⑥ また、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか」については、引き続き多くの企業で改善が強く望まれる。(平均得点率 49%、得点率: 20%台 2社・30%台 3社・40%台 2社 [内訳: 鉄鋼 3社、非鉄金属 4社])
- ⑦ さらに、昨年度の評価項目「説明会資料における実績および見通しの開示(A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか)」につき、今回その質問に「情報開示の後退はありませんか」と質問を追加し、評価点を 4 点から 6 点に増加したところ、14 社中 10 社の得点率が低下した。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 住友金属鉱山(ディスクロージャー優良企業 [7 回連続 7 回目]、総合評価点 82.8 点 [昨年度比-1.7 点])

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率(以下省略) 86%)、**説明会等**(86%)、**コーポレート・ガバナンス関連**(74%) が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位(90%)、**自主的情報開示**が第 2 位(73%)となり、**自主的情報開示**が昨年度比 17 ポイント上昇したが、他社との格差は縮小した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが IR の重要性を理解し、アナリストミーティング等において、経営戦略、事業環境等を明確に説明していることが高く評価されたことや、経営トップが自ら積極的に投資家と向き合い、積極的に市場と対話していることなどが高い評価を受けた。また、IR 担当者の専門性が高く、業界動向に精通しているほか、事業部からの情報収集、詳細な競合他社比較の提供など、同部門の機能も高く評価された。
- ③ **説明会等**においては、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要なかつ十分な補足資料がホーム・ページ等で入手できることや、収益および財務分析に必要な情報、部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータ、経営分析に必要な情報の継続的開示に関し、説明資料等で引き続き十分な情報開示をしたことも極めて高く評価された。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示していることも高い評価となり、この分野全体について高く評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、その取組姿勢、ホーム・ページにおける情報提供を含め、この分野全体について極めて高く評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、長期ビジョンに基づいた中期経営計画を策定し、その進捗状況を十分に説明していることなど、目標とする経営指標等の説明が評価された。また、株主還元策について十分に説明している点も評価された。さらに、コーポレートガバナンス・コードの各項目について説明していることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、統合報告書の内容が充実していることや、E-mail を利用した有用な情報提供について評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 古河電気工業（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 74.9 点〔昨年度比+7.3 点〕、昨年度第 11 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位（77%）、説明会等が同得点第 4 位（77%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 7 位（88%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 5 位（68%）、自主的情報開示が第 4 位（65%）となった。全ての評価分野の得点率が昨年度を上回り、特に、経営陣の IR 姿勢等で 10 ポイント、説明会等で 8 ポイント、自主的情報開示で 12 ポイント上昇したことから、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で第 2 位、順位の上昇幅で同点第 1 位）につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが市場への情報発信機会を積極的に設け、市場との対話を強化しようとする意欲が感じられること、戦略についての説明が具体的になってきたことなど、経営陣の IR 姿勢が評価された。
- ③ 説明会等においては、説明会、インタビューにおいて資料等の数値や文言の理解を深めるような説明が評価された。また、IR デーを開催し、市場の関心に沿って具体的な事業別の戦略を発信したことも評価された。
- ④ コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていることや、中期経営計画を公表し、その進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていることなど、目標とする経営指標等の説明が評価された。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

第 3 位 丸一鋼管（総合評価点 74.8 点〔昨年度比-5.5 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位（81%）、説明会等が第 10 位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 11 位（79%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 2 位（73%）、自主的情報開示が第 7 位（55%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが決算説明会やインタビューにおいて現状の課題や今後の経営方針について説明していることや、市場を意識し対話に積極的であることなどが高い評価を受けた。また、IR 部門に情報が十分集積され、IR 担当が会社全体の状況を俯瞰した情報を適切に提供しているなど、IR 部門の機能も高く評価された。
- ③ 説明会等においては、説明会資料等において、部門別あるいは主要子会社別の実績および見通しのデータなど収益および財務分析に必要な情報を引き続き十分に記載したことなど、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮していることなども高い評価となった。
- ④ コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由を十分に説明していることや、経営計画を公表し、その進捗状況・達成のための具体的方策を十分に説明していることなど、目標とする経営指標等の説明が評価された。また、資本政策に関し十分な説明を行っていることも評価された。さらに、株主還元策を積極的に説明していることについては、他社と差のあるトップの得点率となり、資本政策、株主還元策の開示の 2 項目合計で第 1 位の得点率、この分野全体では第 2 位の得点率となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **日立金属（総合評価点 72.8 点〔昨年度比+5.9 点〕、同得点第 4 位〔昨年度第 13 位〕）**

- ① 同社は、自主的情報開示が第 1 位（76%）、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（75%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 8 位（66%）となった。5 つの評価分野中 4 分野の得点率が昨年度を上回り、特に、経営陣の IR 姿勢等で 11 ポイント上昇したことなどから、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で第 3 位、順位の上昇幅で同点第 1 位）につながった。
- ② しかしながら、説明会等およびフェア・ディスクロージャーの分野の得点率が昨年度に引き続き低位であり、改善の余地がある。

○ 三井金属鉱業（総合評価点 72.8 点〔昨年度比+4.9 点〕、同得点第 4 位〔昨年度第 10 位〕）

同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（90%）、経営陣の IR 姿勢等（74%）、自主的情報開示（61%）が第 6 位、説明会等が第 9 位（76%）、コーポレート・ガバナンス関連が第 10 位（64%）となった。5 つの評価分野中 4 分野の得点率が昨年度を上回り、特に、自主的情報開示で 19 ポイント、フェア・ディスクロージャーで 7 ポイント、説明会等で 6 ポイント、経営陣の IR 姿勢等で 5 ポイント上昇したことから、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で第 4 位、順位の上昇幅で第 3 位）につながった。

○ 神戸製鋼所（総合評価点 70.7 点〔昨年度比+8.8 点〕、第 10 位〔昨年度第 14 位〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（90%）、自主的情報開示（66%）が第 3 位となった。5 つの評価分野全ての得点率が昨年度を上回り、特に、自主的情報開示で 25 ポイント、フェア・ディスクロージャーで 12 ポイント、説明会等で 5 ポイント、経営陣の IR 姿勢等で 10 ポイント上昇したことから、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅で第 1 位、順位の上昇幅で第 4 位）につながった。
- ② 社長が決算説明会等に出席するようになったことや、投資家の関心に沿った事業説明会を開催したことが評価された。

以 上

平成29年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (鉄鋼・非鉄金属)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)		1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャ-		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
				評価項目4 (配点 30点)		評価項目8 (配点 30点)		評価項目5 (配点 10点)		評価項目5 (配点 20点)		評価項目3 (配点 10点)		
		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	(5713) 住友金属鉱山	82.8	1	25.9	1	25.9	1	9.0	1	14.7	1	7.3	2	1
2	(5801) 古河電気工業	74.9	3	23.0	3	23.1	4	8.8	7	13.5	5	6.5	4	11
3	(5463) 丸一銅管	74.8	2	24.3	2	22.6	10	7.9	11	14.5	2	5.5	7	2
4	(5486) 日立金属	72.8	4	22.5	4	21.9	14	7.7	14	13.1	8	7.6	1	13
4	(5706) 三井金属鉱業	72.8	6	22.2	6	22.7	9	9.0	1	12.8	10	6.1	6	10
6	(5711) 三菱マテリアル	72.4	10	21.5	10	24.2	3	8.8	7	13.0	9	4.9	9	4
7	(5714) DOWAホールディングス	72.0	5	22.3	5	24.4	2	8.9	6	12.3	12	4.1	12	3
8	(5802) 住友電気工業	71.5	7	21.8	7	23.1	4	9.0	1	13.3	6	4.3	11	8
9	(5401) 新日鐵住金	71.4	11	21.1	11	22.1	12	8.0	10	13.8	3	6.4	5	7
10	(5406) 神戸製鋼所	70.7	13	19.8	13	23.0	6	9.0	1	12.3	12	6.6	3	14
11	(5411) ジェイ・エフ・イーホールディングス	70.3	8	21.7	8	22.0	13	7.9	11	13.8	3	4.9	9	9
12	(5471) 大同特殊鋼	69.8	12	20.7	12	22.8	8	9.0	1	12.2	14	5.1	8	12
13	(5803) フジクラ	69.4	9	21.6	9	23.0	6	7.8	13	13.3	6	3.7	14	6
14	(5413) 日新製鋼	66.8	14	19.5	14	22.2	11	8.6	9	12.4	11	4.1	12	5
	評価対象企業評価平均点	72.32		22.00		23.06		8.53		13.22		5.51		

(注1) 総合評価点と同順位の場合同、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は3.7点(昨年度6.0点)であった。

29年度評価項目および配点（鉄鋼・非鉄金属）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (30点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 全体として経営トップのIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）	8
② 経営トップがアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスにおいて、今後の経営方針等について、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。	8
③ 経営トップの市場との対話姿勢をどう評価しますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	8
(2) IR部門の機能	
IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していますか。また、担当交代時に十分な引き継ぎがなされていますか。	6
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (30点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	6
② インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	4
(2) 説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料（詳細なファクトブックを含む）が、TDnet経由またはホーム・ページで入手できますか。	4
② 説明会資料等における実績および見通しの開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。情報開示の後退はありませんか。	6
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	4
C 経営分析に必要な重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
① 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	2
② 四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか。 [開催あり：1点 開催なし：0点]	1
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示は、公平にかつ遅滞なく行われていますか。	3
② 制度開示の変更に伴い、情報開示が後退していませんか。	4
(2) ホーム・ページ等における情報提供	
① ホーム・ページを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）を行っていますか。	1
② 説明会または電話会議のライブは、電話やウェブキャストで視聴等が可能であり、有用な情報提供となっていますか。	1
③ 外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか。	1
4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示	配点 (20点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、十分に説明がなされていますか。	4
(2) 目標とする経営指標等	
① 重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）とその目標、それを採用する理由が十分に説明されていますか。	4
② 中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	4
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策（資金調達、資本コスト、グループ持合政策、優先株、金庫株等）に関し十分な説明がされていますか。	4
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について、十分に説明していますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10点)
① 工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	7
② 統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。	2
③ E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。	1

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部会長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	榎本 尚志	メリルピチ日本証券
	小野 まな実	三井住友アセットマネジメント
	黒坂 慶樹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	竹元 宏和	アセットマネジメント One
	松本 裕司	野村証券

評価実施アナリスト(23名)

石井 宏	三菱 UFJ 国際投信	崎村 英治	野村アセットマネジメント
井上 崇	三井住友信託銀行	添谷 昌生	りそな銀行
入沢 健	立花証券	竹元 宏和	アセットマネジメント One
榎本 尚志	メリルピチ日本証券	富田 展昭	極東証券経済研究所
尾崎 慎一郎	大和証券	中村 宏司	QUICK
小野 まな実	三井住友アセットマネジメント	平井 克典	東京海上アセットマネジメント
梶山 健	日興アセットマネジメント	松本 裕司	野村証券
梶島 裕介	大和証券投資信託委託	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
黒木 文明	ニッセイ アセット マネジメント	宗像 陽	シテイグループ証券
黒坂 慶樹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
五老 晴信	モルガン・スタンレー MUFG 証券	山口 敦	SMBC 日興証券
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。